

第二章

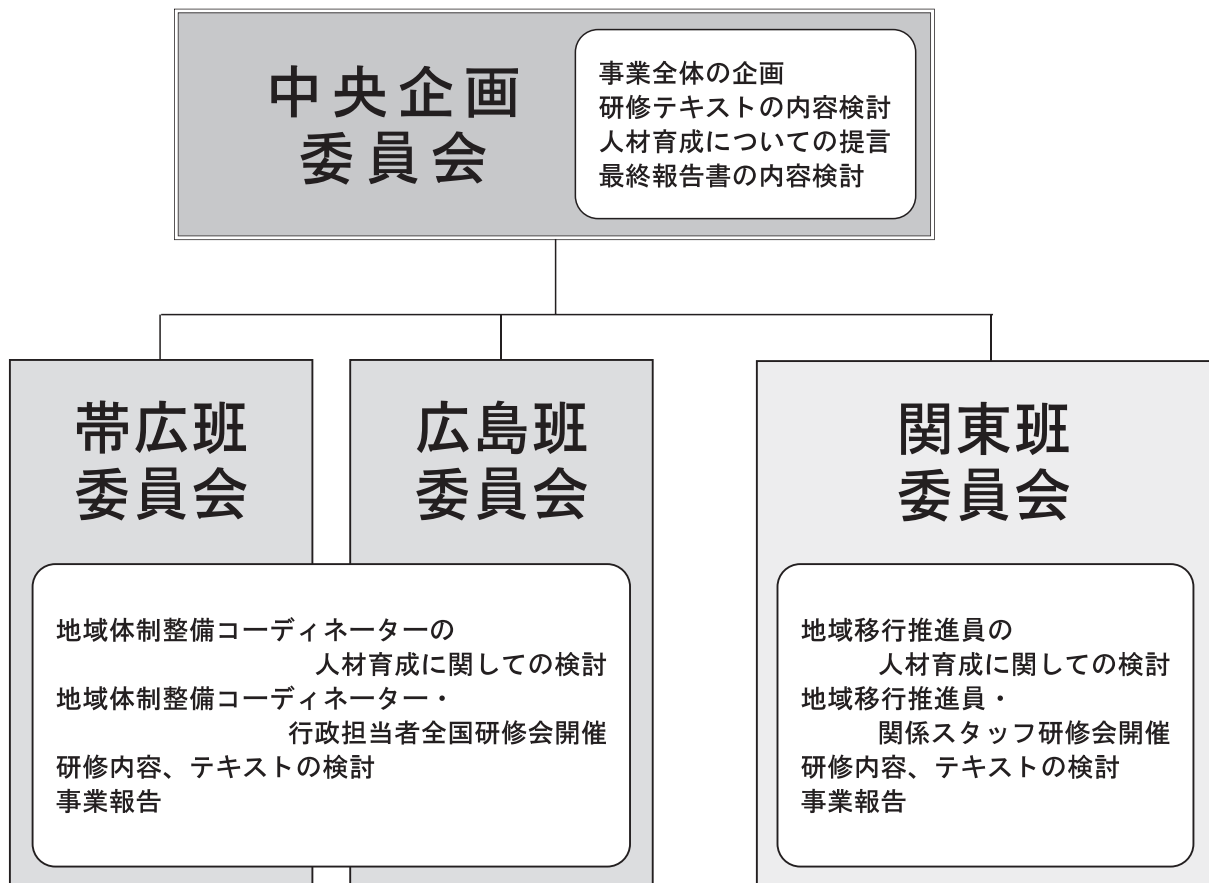
精神障害者の地域移行を推進するための
「地域体制整備コーディネーター・行政担当者全国研修」
「地域移行推進員・関係スタッフ研修」報告

この章の資料について

本調査研究事業においては、下図のとおり「中央企画委員会」を設置し、事業全体の企画を行うこととした。また、研修開催地を拠点に、地域体制整備コーディネーター研修を企画・運営する「帯広班委員会」「広島班委員会」、地域移行推進員研修を企画・運営する「関東班委員会」を設置した。

この章では、各研修の開催状況およびアンケート結果等について報告する。

本調査研究事業の実施体制



地域体制整備コーディネーター・行政担当者全国研修 （帯広会場）報告

帯広班委員長 三上 雅丈
（帯広生活支援センター）

日 程 平成22年10月29日（木）
30日（金）
会 場 とかちプラザ
（北海道帯広市）
受講者 38名



平成22年10月29日～30日の2日間、帯広にて地域体制整備コーディネーター研修を開催した。講義を中心にグループワークも含めた研修内容で、事務局も併せ60名前後の参加者があった。

1. 研修概要

■ 1 日目（10月29日）

午前中は講義を行い、行政の立場から厚労省障害保健専門官 吉川氏・洲本健康福祉事務所長 柳氏より話を聴いた。内容は主に精神障害者の地域移行の現状における課題、これからの地域移行に向けた厚労省の方向性、保健所の関わり方・役割であった。会場から質問も多く出たことから関心の高さが伺えた。地域体制整備コーディネーターの役割を保健所が担っている所から相談支援事業所に委託している所まで立場が様々なため、具体的な役割を示されたことは大きな影響があったのではと感じている。

午後は行政担当者・地域体制整備コーディネーター・ピアサポーターを各6名前後、6グループに分けて、地域移行の現状と課題について演習を行った。それぞれ地域ごと・立場ごとに課題を抱えており、積極的な意見交換が行われた。意見としては、「他の地域がどのような仕組みで行っているのか知らなかった」「意見交換することで自分の地域で生かせることもあった」「もう少し時間が欲しかった」などがある。また、ピアサポーターからも当事者としての立場から「就労移行支援に期限があることで振り回され困った」など実際に自分の体験を話す機会もあり、地域移行担当者はもちろん、行政担当者にも当事者の想いが伝えられたことはとても大きな事であると考えた。

■ 2 日目（10月30日）

午前中は、日本精神保健福祉士協会常任理事 田村氏と埼葛北障がい者生活支援センターふれんだむ岩上氏から昨年のプロジェクトの報告、地域体制整備コーディネーターの役割、課題についての講義があった。前日のグループワークで課題として出た事に関係する話もあった。また、両者とも「社会的入院は人権侵害である」という視点が基本ということ、社会資源など環境が違って、そのことが退院できない理由にはならないということが共通していた。

午後は、地域移行に関わっている様々な立場の人からで行われる、パネルディスカッションであった。パネラーは、地域体制整備コーディネーターや保健所職員、病院関係者、地域移行推進員、ピアサポ-

ターなど多職種にわたっており話す内容も様々だが、1日目や2日目午前中の内容と関連する部分も多く、関心高く聞かれていた。質問ではピアサポーターに関する事が多く、「まだ導入していないが、ピアサポーターを活用していきたい」など前向きな意見も聞かれた。

2. アンケート結果から

31名の参加者からアンケートを提出してもらうことができた。

全体として多かった感想は、前述と重なる部分もあるが、「ピアサポーターの活用について」と「行政の役割」「グループワーク」についてである。

ピアサポーターに関してはほぼ全員がふれており、多くが今後採用したいと考えているという意見だった。

行政の役割については行政担当者自身からも「役割がはっきりしていなかったが、今回の研修で明確になった」という意見が多々あり、行政担当者も試行錯誤しながら事業を行ってきたようだ。

グループワークについては多数の人から「時間がもう少しあればよかった」「もっと色々な地域や職種の人と交流したい」等、改めて振り返る機会になったようであり、積極的な意見が大半を占めた。

その他には、生活保護においての地域移行の事例・医療関係者（特に看護師）の話・自立支援協議会について・病院との関わり方、連携の方法等の声があった。また、厚労省担当者からの事業の重要性・必要性に関する意見が心強かったという声もあった。

研修全体としての評価も好意的であり、「勉強になった」「参加してこれからの事業展開に希望が持てた」など研修を行って、励みになる意見が多かった。

3. 全体を振り返って

2日間を通し、全ての人に共通していたことは「社会的入院を解消したい」という想いであったと実感している。社会資源など地域格差があり、想いはあっても実際に行動に移せず自問自答している人もいた。そのような人にとってはこのような研修の場が様々な地域の情報を知ることが出来る場でもあったと考える。

人数は想定より少なかったが、少なかったことが逆に活発に意見交換が行われる結果となり良かった。また、ピアサポーターへの関心の高さが伺えた。当事者が持つ力への可能性は大きく、地域移行に必要な存在であることを再確認することができた。

2日間という短い時間ではあったが、内容の濃い研修ができ、これからの課題など改めて確認することができたと感じている。

最後に、この帯広研修に関わり、協力して頂いた全ての方に御礼を申し上げます。

地域体制整備コーディネーター・行政担当者全国研修（帯広会場）プログラム

（敬称略）

研修1日目：平成21年10月29日（木）		ページ※
9：00	受付開始	—
9：30	開講式 オリエンテーション	—
9：50	講義Ⅰ（60分） 「精神障害者の地域移行」－現状と課題－ 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 障害保健専門官 吉川 隆博	50
10：50	休憩（10分）	—
11：00	講義Ⅱ（60分） 「地域移行をどのように取り組むべきか」－保健所・地方行政の現状と課題－ 兵庫県淡路県民局 洲本健康福祉事務所 所長 柳 尚夫	111 （第五章） 提言1.
12：00	昼食・休憩（60分）	—
13：00	全員発言「それぞれが取り組んでいる現状を出し合おう!!」 その1）グループセッション（120分） 「地域体制整備コーディネーターの現状と課題」－具体的展開を学びあおう－	98
15：00	休憩（10分）	—
15：10	その2）全体セッション（80分） 「グループの報告とそれぞれへのコメント 意見交換」 コーディネーター 特定非営利活動法人十勝障がい者支援センター 理事長 門屋 充郎 コメンテーター 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 障害保健専門官 吉川 隆博 吉田 寛治 兵庫県淡路県民局 洲本健康福祉事務所 所長 柳 尚夫 埼葛北障がい者生活支援センターふれんだむ 管理者 岩上 洋一 社団法人日本精神保健福祉士協会 常任理事 田村 綾子	—
16：30	その3）まとめ（30分） 「日本の精神保健医療福祉における地域移行の意義」 特定非営利活動法人十勝障がい者支援センター 理事長 門屋 充郎 （厚生労働省「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会構成員」）	—
17：00	1日目終了	—

研修2日目：10月30日（金）		ページ※
9：00	受 付	—
9：30	講義Ⅲ（70分） 「地域移行事業の全国の動き」— 昨年の調査研究プロジェクトの報告— 社団法人日本精神保健福祉士協会 常任理事 田村 綾子	68
10：40	休憩（10分）	—
10：50	講義Ⅳ（70分） 「地域体制整備コーディネーターの役割と課題」 埼葛北障がい者生活支援センターふれんだむ 管理者 岩上 洋一	74
12：00	昼食・休憩（60分）	—
13：00	パネルディスカッション（210分） 「実践的地域移行の展開」— 各地の報告と課題— コーディネーター 帯広生活支援センター 所長 三上 雅丈 パネラー 地域生活支援センターまほろば 金子百合子（広島県東広島市） 空知保健福祉事務所滝川地域保健部（滝川保健所） 精神保健福祉係長 菊地 亮爾（北海道滝川市） 医療法人大江病院 作業療法士 酒井 一浩（北海道帯広市） 千歳地域生活支援センター センター長 奥貫あい子（北海道千歳市） 帯広生活支援センター 推進員 丸瀬 恵（北海道帯広市） 帯広生活支援センター ピア・サポーター 佐藤 文朗（北海道帯広市） 沼田 和祥（北海道帯広市）	—
16：30	まとめ（30分） 「地域精神保健福祉活動の展望」 特定非営利活動法人十勝障がい者支援センター 理事長 門屋 充郎	—
17：00	終 了	—

※本書における各講義・プログラムの概要の掲載ページ

地域体制整備コーディネーター・行政担当者全国研修 （広島会場）報告

広島班委員長 金子 百合子
（地域生活支援センターまほろば）

日 程 平成22年2月4日(木)・5日(金)
会 場 ホテルセンチュリー21広島
（広島県広島市）
受講者 109名



1. 広島会場での研修の概要

広島会場での研修は、平成22年2月4日(木)・5日(金)の両日にわたって、ホテルセンチュリー21広島を会場として開催した。

全国25都道府県より、109名の参加があった。職種の内訳としては、地域体制整備コーディネーター（予定者を含む）、行政の職員（保健師等）のほか、病院精神保健福祉士、地域移行推進員などだった。

研修のプログラムは、広島の実行委員会で、帯広研修のプログラムを参考に組み立てた。

会議で内容を検討する中で、基本的な講義は帯広会場とほぼ同じ講師陣に行ってもらおうこととしたが、各地での実践を紹介することについては、地域移行支援事業が都道府県によって取り組みが異なっていることから、ユニークな取り組みをしている3都道府県の実践を取り上げることとした。

また、グループワークの時間を多く取ることとしたが、これは参加者それぞれの日々の活動を言語化してもらおうとともに、全国各地の実践のエッセンスを参加者それぞれの地域へ持ち帰ってもらうことを意図した。

グループワークは、①モデル事例を通して、コーディネーターの役割について具体的に検討してもらうもの、②コーディネーター・行政の立場で分かれて、それぞれの現状と課題を検討してもらうものの2つを行った。2つのグループワークを行ったねらいは、グループを変えることで、より多くの人との交流が図れることであった。

2. 2日間の研修を通して

原点確認の場としての研修

この2日間の研修を通して、地域移行支援の意義、行政及び体制整備コーディネーターの役割について、学びあうことができたように思われる。

研修終了時に実施したアンケートにも、「原点確認という形で体に染み入った」「地域移行支援が特別なものではなく、精神保健福祉の根底にあるものと改めて感じた」「明日からやるのが明確になってきた」等、意義・役割等について再確認できたとの意見が多かった。また、他県での取り組みを聞いたことは、「各地域のやり方の違いに驚いた」方もあったようであるが、各地域の状況が聞けることで、「発想の転換や柔軟な考え方の必要性」「地域格差があるからこそ重層的な意見交換が可能となり、その中で自分の地域なりのヒントが具体的に感じられた」「（参加者の話を通して）取り組みや思い、共通

の課題を知ることができ、自分の課題も明確になった」等、今後の実践について前向きな意見が多かった。

さらに、人材育成についても、「リーダーではなく、プロデューサーを作る」との講師の意見に共感した方も多かった。

都道府県単位での研修開催に向けて

今回の研修に参加した人の4分の3が、こうした研修は初めてであると、前出のアンケートで答えている。各都道府県では、個別には研修が行われているようではあるが、都道府県によって事業の進め方が異なるため、今回のような、都道府県を越えて集い、実践の交流を行うことから、よりよいものを作り上げていこうとするための研修が今後必要だと思われる。アンケートにも、「ピアサポーターからの意見を聞きたい」「自立支援協議会との連携」「国の方針など新しい情報を知り、どう取り組んでいくか」「もっと、実践報告を聞きたい」等の多くの意見が上がっている。

広島開催の意義と成果

今回、この研修を広島の地で開催できたことは、広島県にとっても大きな成果となった。広島県では、平成16年度からモデル事業を実践し、その後は県内の圏域ごとに事業を展開してきているが、その状況は圏域によって大きく異なっている。県内の担当者が今回の研修を共に受講し、共通認識を図ることにより、圏域や行政・相談支援事業所という立場を超えて、これからの広島県において、地域移行支援を共に考えていく土台をつくることができた。

アンケートにも、「地域に出向いて研修をしてくれるといい。地域の行政が、元気に仕事出来るように。官民一緒に」との声があった。今後様々な地域で、更に「協働」して事業に取り組んでいけるよう、継続した研修の実施を望みたい。

地域体制整備コーディネーター・行政担当者全国研修（広島会場）プログラム

（敬称略）

研修1日目：平成22年2月4日（木）		ページ※
9：00	受 付	—
9：30	開講式 オリエンテーション	—
9：50	講義Ⅰ（60分） 「精神障害者の地域移行－現状と課題－」 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域移行支援専門官 武田 牧子	50
10：50	休 憩（10分）	—
11：00	講義Ⅱ（60分） 「地域移行支援における保健所・地方行政の現状と課題」 兵庫県淡路県民局 洲本健康福祉事務所 所長 柳 尚夫	111 （第五章） （提言1.）
12：00	昼 食・休 憩（60分）	—
13：00	講義Ⅲ（60分） 「地域生活移行支援の基本的視点 －昨年の調査研究プロジェクトの報告を踏まえて－」 社団法人日本精神保健福祉士協会 常務理事 田村 綾子	68
14：00	休 憩（10分）	—
14：10	パネルディスカッション（120分） 「実践的地域移行の展開－各地の報告と課題－」 コーディネーター 地域生活支援センターさ・ポート 長谷部隆一（広島県三原市）	85
16：10	パネラー 帯広生活支援センター 三上 雅文（北海道帯広市） 社会福祉法人ふあっと 矢田 朱美（島根県出雲市） 地域生活支援センター サポートセンターきぬた 金川 洋輔（東京都世田谷区）	
16：10	休 憩（10分）	—
16：20	まとめ 「日本の精神保健医療福祉における地域移行の意義」 十勝障がい者支援センター 理事長 門屋 充郎 （厚生労働省「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会構成員」）	—
16：50	諸連絡	—
17：00	研修1日目 終了	—

研修2日目：平成22年2月5日（金）		ページ※
9：00	受 付	—
9：30	講義Ⅳ（60分） 「地域体制整備コーディネーターの役割と課題」 埼葛北障がい者生活支援センターふれんだむ 管理者 岩上 洋一	74
10：30	休 憩（10分）	—
10：40	全員発言「それぞれが取り組んでいる現状を話し合おう!!」（1）（110分） その1） 演習「地域体制整備コーディネーターの役割 —具体的展開へのアプローチ—」	96
12：30	昼 食・休 憩（60分）	—
13：30	全員発言「それぞれが取り組んでいる現状を話し合おう!!」（2）（80分） その2） グループセッション「地域体制整備コーディネーターの現状と課題 —それぞれの地域の現状と今後の展望を話し合おう—」	98
14：50	休 憩（15分）	—
15：05	その3）全体セッション（60分） 「グループの報告とそれぞれへのコメント・意見交換」 コーディネーター 十勝障がい者支援センター 理事長 門屋 充郎 コメンテーター 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域移行支援専門官 武田 牧子 兵庫県淡路県民局 洲本健康福祉事務所 所長 柳 尚夫 埼葛北障がい者生活支援センターふれんだむ 管理者 岩上 洋一	—
16：05	まとめ（45分） 「地域精神保健福祉活動の展望」 十勝障がい者支援センター 理事長 門屋 充郎	—
16：50	全日程 終了	—

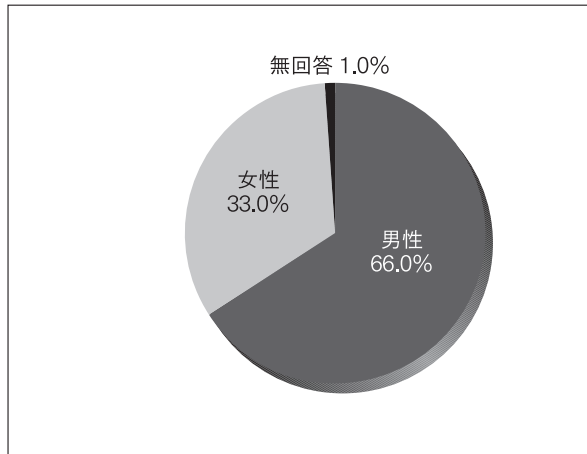
※本書における各講義・プログラムの概要の掲載ページ

地域体制整備コーディネーター・行政担当者全国研修会 アンケート集計結果

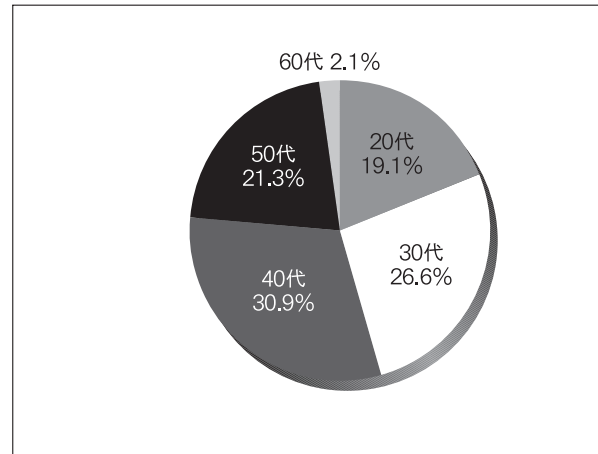
受講者数 109名
アンケート回答 94名
回答率 86.2%

I. 受講者の状況（回答＝94）

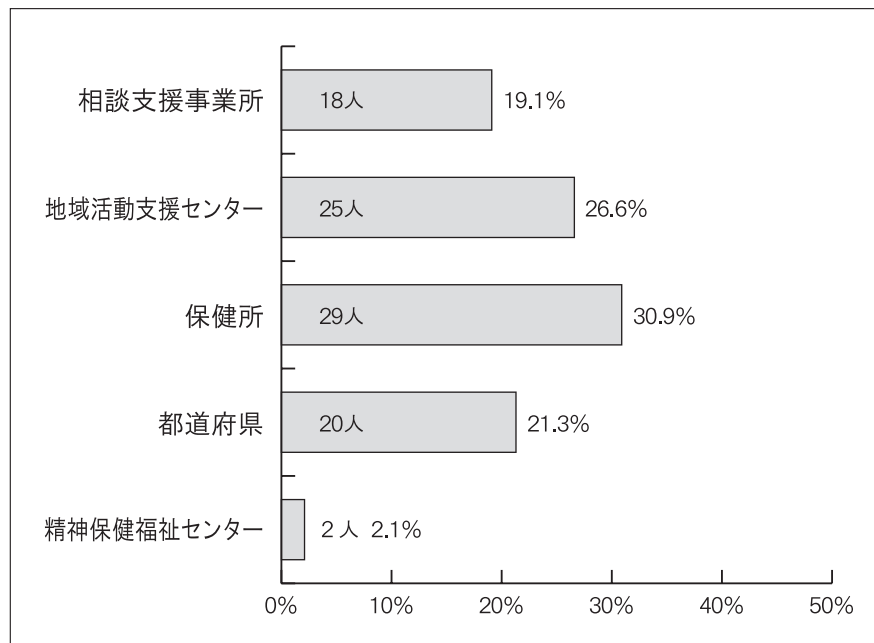
1. 性別



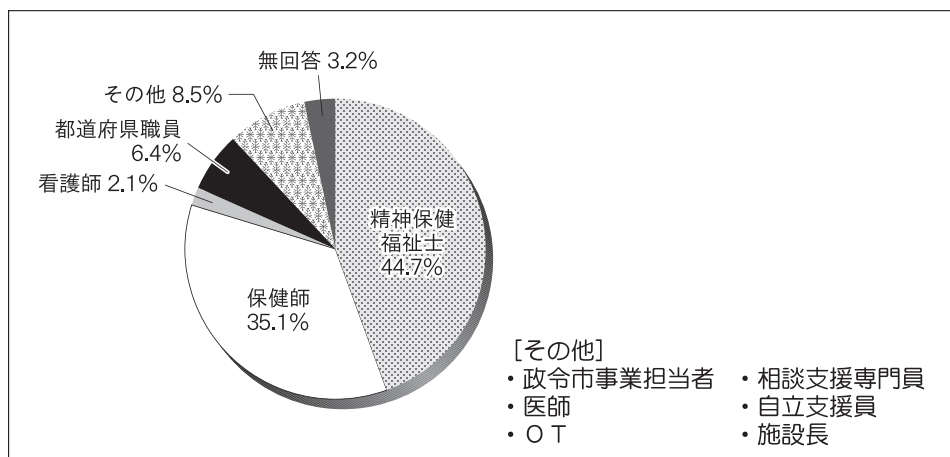
2. 年齢



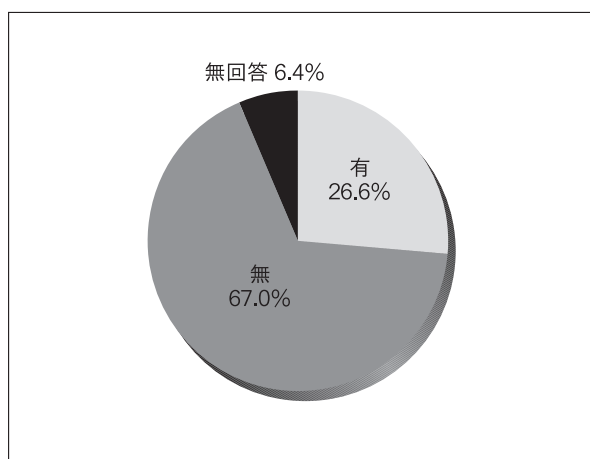
3. 現在、所属する施設・機関（複数回答）



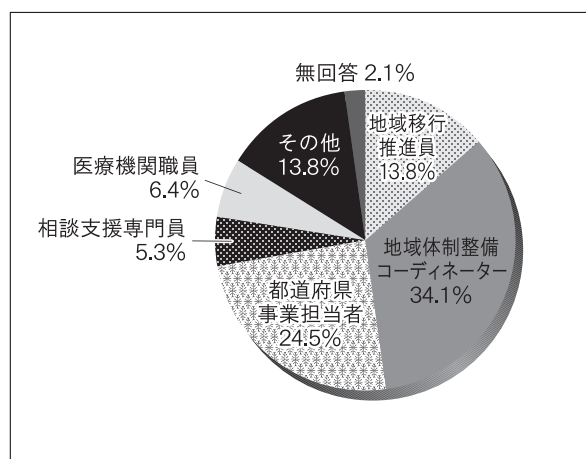
4. 主たる職種



5. 同様のテーマの研修受講歴



6. 研修の対象となる職種

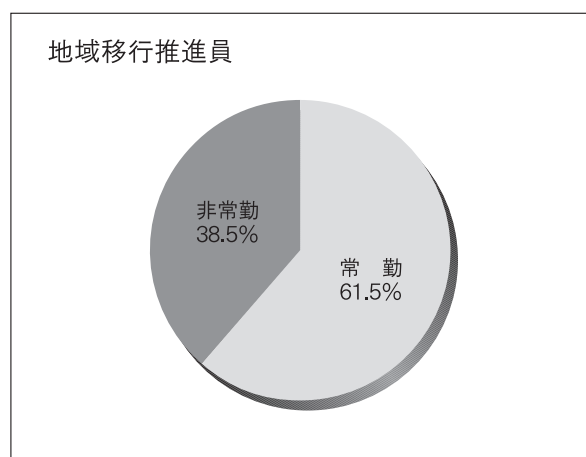
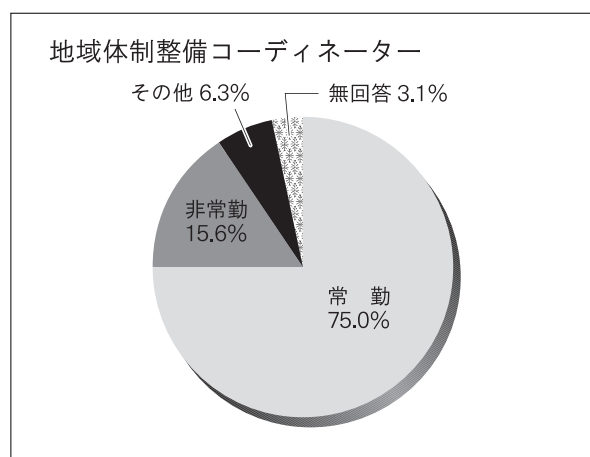


7. 地域体制整備コーディネーター・地域移行推進員の業務等について

（「6. 研修の対象となる職種」を“地域体制整備コーディネーター”“地域移行推進員”とした場合のみ回答）

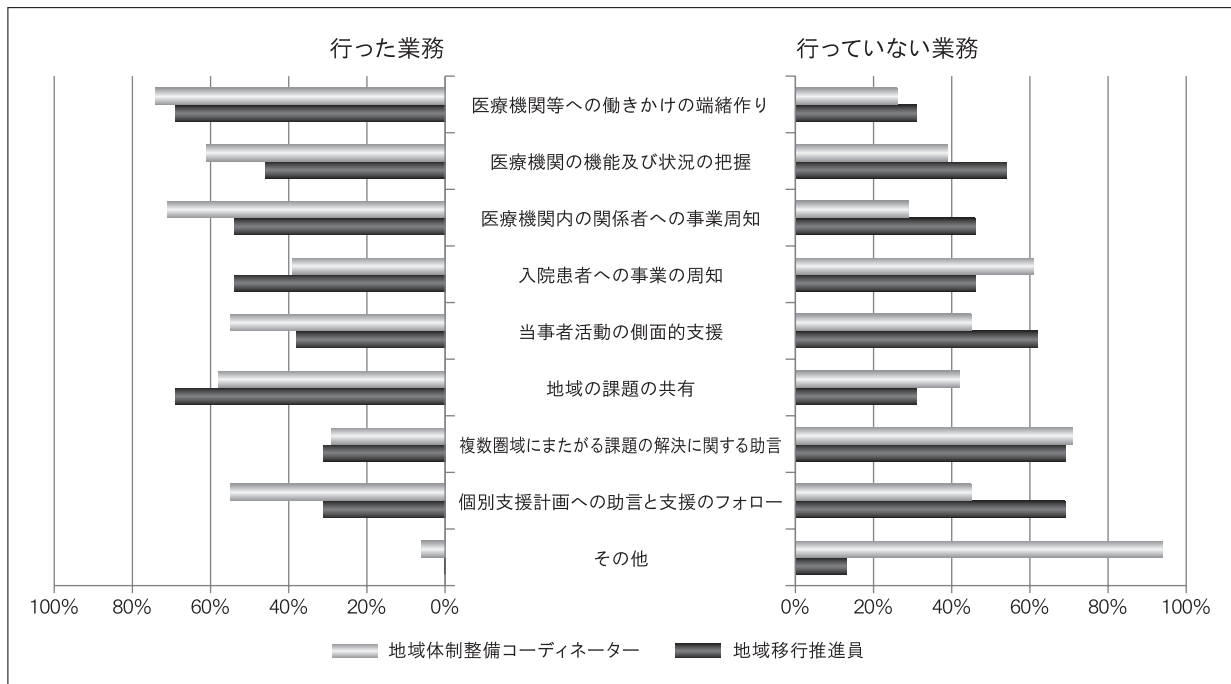
地域体制整備コーディネーター（回答＝32） 地域移行推進員（回答＝13）

1) 雇用体制



2) 今年度実際に行った業務

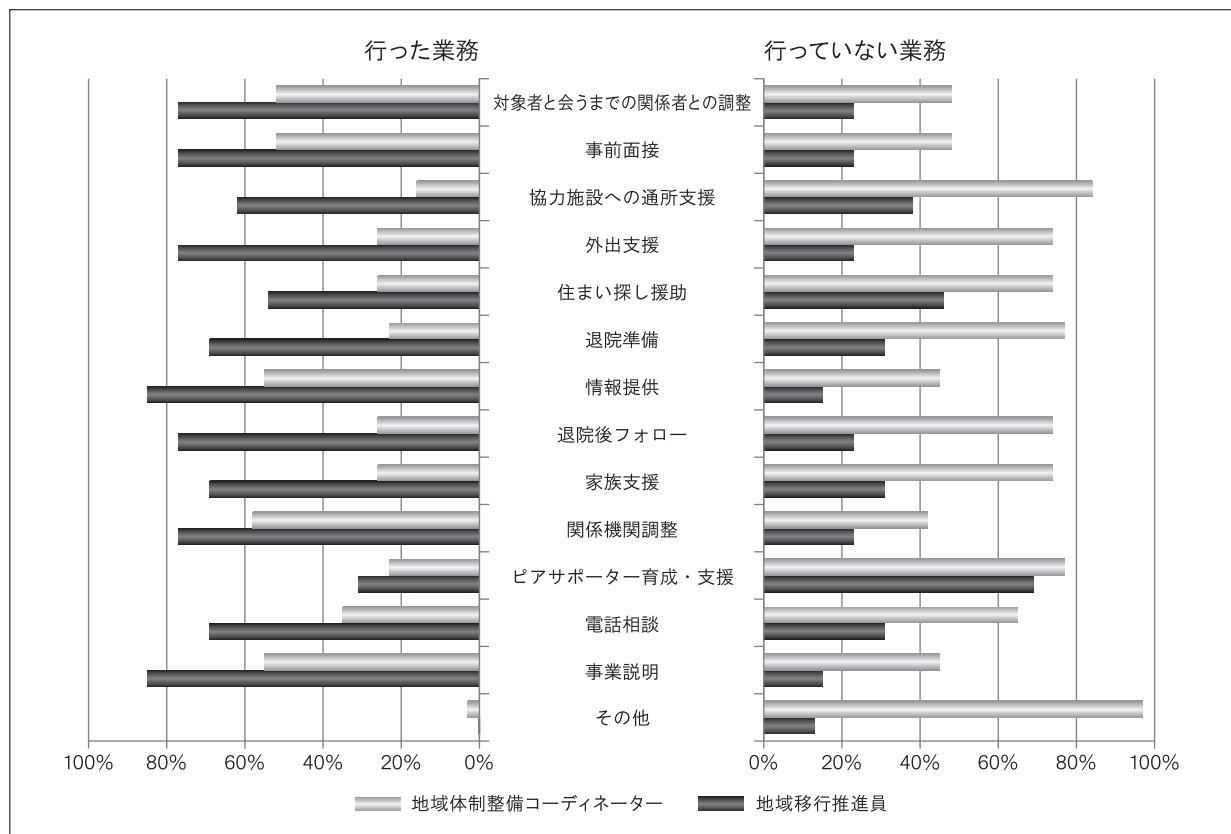
A 群 <体制整備関連>



[その他の内容]

- ・事業進捗状況の把握
- ・県としての病院実地指導、社会復帰施設監査
- ・個別支援会議の運営・企画・まとめ
- ・行政のピアサポーター養成講座、公開事例講座などの運営手伝い

B 群 <個別支援関連>

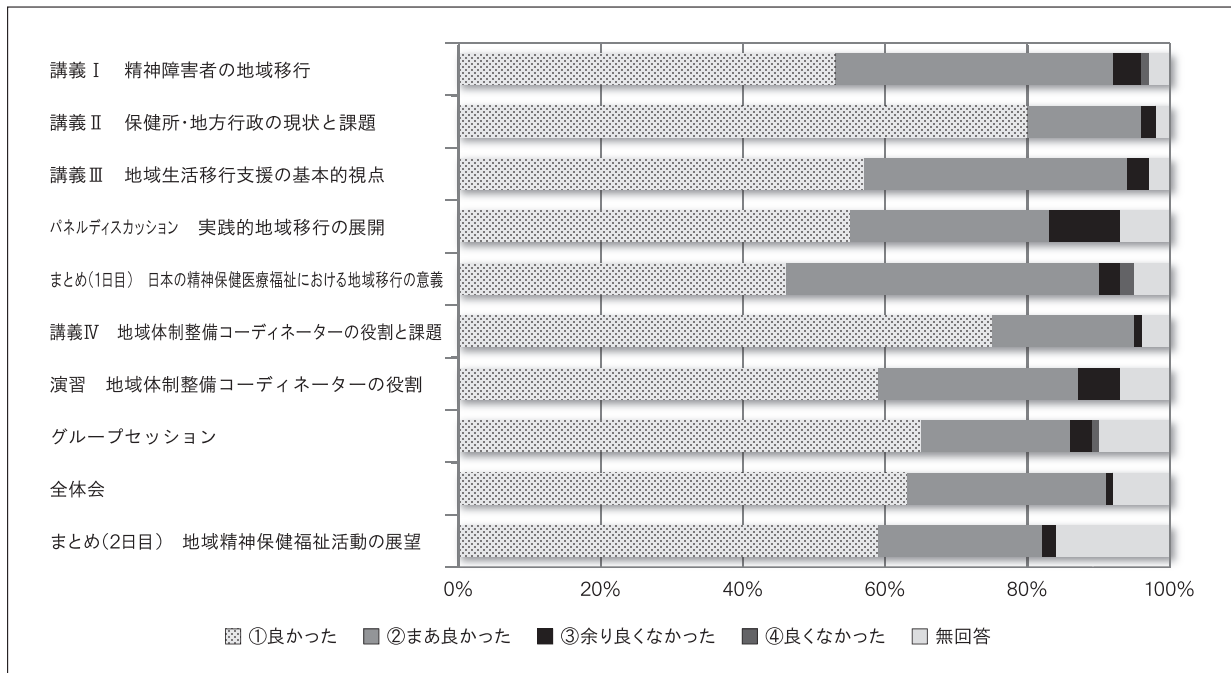


[その他の内容]

- ・退院後の継続的な訪問支援
- ・訪問による在宅生活支援
- ・支援中ケースのケア会議参加

Ⅱ. 研修内容について

1) 各プログラムのテキスト・講義内容のわかりやすさや参考になったかどうか



2) 各プログラムについての意見・改善に関する提案（抜粋）

講義Ⅰ「精神障害者の地域移行 ―現状と課題―」

- ・最新のお話や、課題の整理と手立て、イメージがもてたのでとても良かったです。
- ・行政側からの体制等お話いただけ今後自分達が何をすべきか考えていく参考にさせていただきます。
- ・改めて、国の情報の整理が出来ました。自分の行動、活動をしていく時、きちんと根拠や今後の動向を考えながら展開していくことの重要性を考えさせられました。
- ・ピアサポーターの活動が予算に計上されるという新しい情報が得られ、ピアサポーターの必要性を再確認し、ピアサポーターの導入に向けて具体的に動いていきたいという思いが強化されました。

講義Ⅱ「地域移行支援における保健所・地方行政の現状と課題」

- ・保健所、病院への働きかけ方や、新たなケースのほりおこしのためのヒントが得られてよかった。
- ・各機関の役割についてわかりにくかった部分も見えてきました。自分達の役割についても一度検討させていただきます。
- ・保健所の持っているデータが見れてよかった。保健所を動かすには、どうすればいいのか、動かないHPと合わせ、課題が多い事を再確認した。

講義Ⅲ「地域生活移行支援の基本的視点 ―昨年の調査研究プロジェクトの報告を踏まえて―」

- ・PSWの専門職としての意識の高さを感じた。特に資格もない立場で動いている人の視点の大切さなども聞きたかった。
- ・退院＝ゴールではなく、障害サービスでかためてしまうことが地域支援でもない。1人の住民として支えていける体制作り、地域への働きかけをもっと考えていきたいです。
- ・「精神障害者の退院と、地域生活の支援に携わる「仲間」をどれだけ増やせるかを、考えればいい」という言葉がとてもわかりやすかったです。
- ・「再発予防のための生活だけになっていないか？」との言葉が心にさりました。

パネルディスカッション「実践的地域移行の展開」

- ・各地の様子や、自立支援協議会との関わり方など、地域へもどって自分の働きにも加えていきたいと思えることがあった。
- ・東京はあまりにも地域性が違いすぎますが、個別のかかわりと、関係作りの内容は、もっと細かく聞きたい内容であり、多くの、同業者に聞かせたいものです。
- ・連携、チームワークの大切さが改めてわかりました。
- ・自立支援法（協議会）との関連をもう一度見直して市町と一緒に取り組んでいく方向性を検討したいと思う。

まとめ「日本の精神保健医療福祉における地域移行の意義」

- ・地域移行支援が特別なものではなく、精神保健福祉の根底にあるものと改めて感じました。私の責務の大きさを改めて感じた。
- ・問題意識をもって事業にかかわる必要があると感じた。今後そのような視点をもってかかわっていけると思う。

講義Ⅳ「地域体制整備コーディネーターの役割と課題」

- ・行政（保健所）でとりくむコーディネーターの役割が、漠然としていたのが、イメージできるようになりました。
- ・岩上さんのお話に出てくる当事者の方の体験談は、いつも生々しく、姿勢を正しくさせられます。ありがとうございました。
- ・常に初心「待っている人がいる」を忘れずに動きつづけていこうと、再確認できた。
- ・明日から出来る事を見つけてみたいと思います。

演習「地域体制整備コーディネーターの役割」

- ・他県の取り組みが良いアドバイスとなりました。ケースを通してなので流れ全体が把握できた。
- ・お互いの現状報告で終わってしまったところもあるが、地域によって様々な状況があると分かってよかった。
- ・地域格差あるからこそ重層的な意見交換が可能になる演習のくみ方であり、その中で自分（の地域）なりのヒントがまた具体的に感じられ、今後、実現に向けて詰めていきたい。

グループセッション

- ・話すポイントをもう少ししぼってもよかった（宿題分を話し合うだけの時間が足りなかったのだ）
- ・行政にわかれての各県の状況紹介なので、各県の状況がとても参考になった。顔見知りになりとてもいい時間であった。
- ・お互いに問題としての事と、解決方法とが、相対していた。多面的・多角的に情報交換出切る事が、有意義だった。
- ・できれば全体へのタイムスケジュール、5分前の声かけなどであるとよかった。
- ・地域移行の事業そのものを見直し、課題整理、事業改変への提言ができればよかったです。

全体会

- ・3人の講師の決意がきけて、とてもよかった。モチベーションをいかに高めるかという研修だったように思いました。
- ・各グループ（全7グループ）の発表を聞き、共通の課題があることに安心した。なので、やはり明日から動かなくては！と思った。
- ・研修を研修で終わらせるのではなく、明日の自分の実践に学んだことを活かさなければならぬと感じた。
- ・講師の方の考えは聞くことができて良かったのですが、グループ毎に出た課題に対する少しの答えが欲しいと感じました。

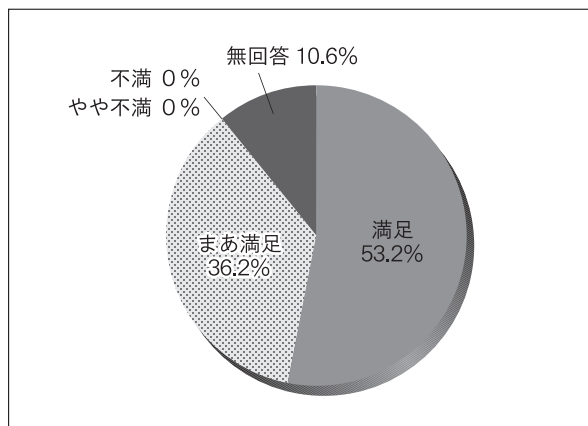
まとめ「地域精神保健福祉活動の展望」

- ・当たり前のことが当たり前のようにできるように支援していきたいと思いました。
- ・この事業を進めていく事はとても大変なことです、人の人生に関わる仕事に誇りを持てるようになりました。ありがとうございます。
- ・「できることからやる」当たり前のことだけど、その積み重ねだと思った。
- ・ピアの力をもっと活用していきたい。
- ・リーダーではなく、プロデューサーを作ることという言葉が印象に残りました。

3) 今後期待する研修テーマ、意見（抜粋）

- ・住まいの場の確保について、具体的な取り組みを紹介してもらいたい。
- ・良い刺激となりました。今後も病院職員も含めたものを考えてください。
- ・今回出て来た課題をもち帰り、各地域でどのように発展させていったのかを次回聞いてみたいです。参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・事例検討、発表してみたいです。
- ・地域に出向いて研修をして下さるといいなと思います。まずは地域の行政の方々が元気に仕事できるように…官民一緒に！
- ・もっと実践報告が聞きたいです。ゆっくりと消化できるだけの時間を取っていただけると嬉しいです。
- ・HP職員への周知あるといい。
- ・今回のように、国の方針など新しい情報があった時にはそれを知り、どう取り組んでいくか考えられる研修はしてほしいです。
- ・自立支援協議会に関するもの（それぞれの取り組みがちがうようなので）
- ・グループセッションの時間が、もう少し長く設定されていると良いと思った。

Ⅲ. 研修全体の満足度



地域移行推進員・関係スタッフ研修報告

関東班委員長 田村 綾子
(日本精神保健福祉士協会)

日 程 平成22年1月16日(土)・17日(日)
会 場 タイム24ビル
(東京都江東区)
受講者 97名



1. 研修会企画に至る検討経過

地域移行推進員は、精神障害者退院促進支援事業における「自立支援員」の役割のうち、地域体制整備コーディネーターに移行された「地域づくり」の役割を除き、主に事業利用者の面接相談や外出同伴など、個別支援の担い手の役割に特化して精神障害者地域移行支援特別対策事業に位置付けられたものである。

この担い手に対する全国規模での研修会のプログラム立案と実施が、本企画検討委員会に割り当てられた役割であった。

地域移行推進員の主たる役割は、厚生労働省精神・障害保健課によれば、

- ・精神科病院等における利用対象者に対する退院への啓発活動
- ・退院に向けた個別の支援計画の作成
- ・院外活動に係る同行支援

などが掲げられている。また、資格要件は、「精神保健福祉士又はこれと同等程度の知識を有する者」とされ、相談支援事業所などへの配置が想定されている。

一方、本検討委員会メンバーのこれまでの経験から、たとえば、雇用形態、職種、研修や指導体制、実務内容などについて、全国各都道府県の方針や委託先の事業所等の事情に左右され、地域移行推進員の実態にはばらつきが推測できた。

そのため、①研修対象者が想定しにくいこと、②研修獲得目標を決め難いこと、の2点を踏まえておく必要性をまず確認した。

そこで、①研修企画の詳細を検討する事前資料として、都道府県に対し、地域移行推進員の実態に関するアンケート調査の実施、②地域移行推進員研修の企画と実施、③受講者に詳細なアンケートを取り、結果を元に研修プログラムや全国規模での研修のあり様を提言することを目的に据えることとした。

2. 全国の地域移行推進員の実態

1) 事前アンケート調査の実施

本アンケート調査では、地域移行推進員の実態について、①職種、②配置人数、③雇用形態、④配置方法等を質問項目とし、研修企画立案の参考として、①都道府県内の研修実施状況、②本研修への要望等を聴取することとした。

実施時期は平成21年9月～10月とし、方法は、厚生労働省精神・障害保健課より、各都道府県庁の本事業担当者にメールで送信し、事務局へ返信してもらった。

2) アンケート結果考察

結果として、39箇所からの回答を得ることができた（結果の詳細は（4）事前アンケート 調査結果参照）。その結果、地域移行推進員は、各都道府県に形態はさまざまであるが、配置されていることがわかった。しかし、実態の幅が広いことから、特に以下のポイントに着目して研修企画を立案することとなった。

- ・予想していたよりは、相談支援事業所と地域活動支援センターの精神保健福祉士が多い。
- ・非専門職（精神障害当事者や民生委員等）も地域移行推進員として活動している場合がある。
- ・地域移行支援事業の実施について、保健所主導のところも目立ち、そのあり方は従来業務との棲み分けの問題など疑問が残る。
- ・保健所にはコーディネート機能の発揮が期待されるが、地域移行推進員の役割を保健所職員が担うという体制には、本事業の趣旨とそぐわない部分があるのではないか。一方、推進員の担い手がない地域では、事業者を育てる役割を保健所が有すると考えられる。
- ・精神保健福祉センターの働きは見えてきづらいが、調査、事業実施のバックアップ、研修などは行っているであろうことが経験的に言える。
- ・都道府県としての本事業への取り組みのビジョンが見えているところは順調に展開している印象。その意味では、研修でもビジョン、イメージを作っていくことが必要といえる。
- ・都道府県により、地域移行推進員の研修実施状況には多様性があり、一方で全国研修への参加希望者も少なくないことから、研修に対しては一定のニーズがあると考えられる。

3. 地域移行推進員研修の企画立案

1) 研修の骨子

参加者に本事業のビジョンを示し、イメージを共有するために、あるべき姿として「民間事業所が病院に働きかけて事業を実施」することを明確に打ち出す必要性を確認した。これは、厚労省が示している「指定相談支援事業所でのケアマネジメント計画の作成と、その担い手である地域移行推進員の配置」をモデルとし、事業所から医療機関（入院患者）への啓発のための働きかけを行い、個別支援計画に基づく支援を実施することができるような地域移行推進員の養成を目的とする意図である。

研修は2日間で実施するが、全国からの参加者のアクセスを考慮し、また両日参加できない者もいることを想定して、1日目に実践報告を加えた基礎的な内容、2日目は1日目の理解を深化させ、研修終了後の実践に活かす応用的な内容を盛り込むこととし、できる限り両日参加を奨励するが1日目のみの参加も可能とすることとした。また、研修方法は講義、実践報告、演習を用い、参加型の研修会とするために両日とも演習を組み込むこととした。

なお、今年度の本補助金事業内で、帯広市と広島市で地域体制整備コーディネーターおよび行政担当者研修が予定されているが、東京における開催が本研修のみであることから、受講対象者は、地域移行推進員を中心としつつもコーディネーターと行政担当者にも拡大することとした。ただし、行政担当者は実務担当とは異なるという観点から、演習課題を別に設け、グループも分けて設定することとした。

2) 研修プログラム

研修で盛り込むべき要素として、以下のポイントを列挙した。